



セットアップ

- シングルノード Intersight 接続型仮想アプライアンスのセットアップ (1 ページ)
- シングルノード Intersight プライベート仮想アプライアンスのセットアップ (4 ページ)
- Intersight アプライアンス アシストのセットアップ (6 ページ)
- Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタの構成 (8 ページ)
- 既存のシングルノード展開からマルチノードクラスタ構成への移行パス (10 ページ)
- Intersight 接続型仮想アプライアンスのリカバリ (10 ページ)
- Intersight プライベート仮想アプライアンスのリカバリ (12 ページ)
- Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタのノードを交換 (14 ページ)
- Cisco Intersight 仮想アプライアンスのハイアベイラビリティおよびディザスタリカバリ (15 ページ)
- Intersight 仮想アプライアンスにログイン (17 ページ)
- ソフトウェア パッケージをダウンロードするためのアプライアンス アカウントの作成 (19 ページ)
- Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード (20 ページ)
- Intersight プライベート仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード (21 ページ)

シングルノード Intersight 接続型仮想アプライアンスの セットアップ

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、オープン仮想アプライアンス (OVA) ファイル形式、ZIP ファイル形式、または TAR ファイル形式で含まれている展開可能な仮想マシンとして配布されます。

始める前に: 「[VMware vSphere 上の Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール](#)」の手順に従って、Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアがインストールされていることを確認します。

Cisco Intersight 仮想アプライアンス ソフトウェアの展開が完了し、VM の電源がオンになったら、<<<https://your fqdn.com>>> URL をクリックします。[Intersight あぶらインす インストーラ

(**Intersight Appliance Installer**)]画面が表示され、新規インストール、バックアップからのアプライアンスソフトウェアの回復、またはアプライアンスへのノードの追加のいずれかのセットアップを完了できます。

ウィザードで、ソフトウェアパッケージをダウンロードしてインストールする一連の手順を実行します。インストールの進行状況は確認できます。

次の手順を使用して、Intersight 接続型仮想アプライアンスのセットアップを完了します。

ステップ 1 **[Intersight アプライアンス インストーラ (Intersight Appliance Installer)]**画面で**[Intersight 接続型仮想アプライアンス (Intersight Connected Virtual Appliance)]**を選択し、**[開始 (Start)]**をクリックします。

ステップ 2 Cisco ID を使用して、**[Intersight 仮想アプライアンスの接続 (Intersight Virtual Appliance Connect)]**ページにログインします。シスコ ID をお持ちでない場合は[こちら](#)から作成してください。

1. (オプション) **[設定 (Settings)]**をクリックして HTTPS プロキシ設定を有効にします。

インターネットへ Cisco Intersight 仮想アプライアンスを接続するのに HTTP/S プロキシが必要な場合は、接続手順を実行する前にプロキシ設定を構成する必要があります。

- **[設定 (Settings)]**をクリックして **[HTTPS プロキシ (HTTPS Proxy)]** オプションを有効にします。
- プロキシ ホスト名または IP アドレスとプロキシ ポートを追加します。

プロキシ ポートは、1 ~ 65535 の範囲にする必要があります。アプライアンスの UI の **[システム (SystemI)] > [設定 (Settings)] > [ネットワーク (NETWORKING)] > [クラウド接続 (Cloud Connection)]** からプロキシの設定を編集することができます。

2. **[接続 (Connect)]** ページに表示されている **デバイス ID** と **要求コード** を使用して Intersight への接続を実行します。

3. **[接続 (Connection)]** のステータスに **[要求済み (Claimed)]** と表示されていることを確認します。

(注) 新しいブラウザ タブが表示され、Intersight でのデバイスの要求ステータスが示されます。Intersight アカウントを持っていない場合は、**[アカウント作成 (Account Creation)]** ウィンドウでアカウントを作成し、ターゲットを要求することができます。ターゲット接続に成功すると、成功メッセージが表示されます。**[閉じる (Close)]** タブをクリックしてタブを終了し、**Intersight 仮想アプライアンスのセットアップウィザード**に戻ります。ターゲット要求が失敗した場合は、Intersight へのログイン画面が表示され、ターゲットを要求するワークフローが再開されます。

ステップ 3 **Intersight アプライアンス インストーラ** のセットアップ ウィザードで、次の手順を実行します。

- a) **[接続 (Connect)]** : **[続行 (Continue)]** をクリックして、**[ネットワーク要件の確認 (Check Network Requirements)]** ステップに進みます。
- b) **[ネットワーク要件の確認 (Check Network Requirements)]** : 結果を表示し、**[次へ (Next)]** をクリックして、**[内部ネットワークの構成 (Configure Internal Network)]** ステップに進みます。

ネットワーク要件のチェック中に、いずれかの DNS テストが失敗した場合は、設定を続行できないことに注意してください。

- c) **[内部ネットワークの構成 (Configure Internal Network)]** : 必要に応じて、デフォルトの内部ネットワーク IP アドレスを変更し、**[次へ (Next)]** をクリックして、**[ソフトウェアバージョンの選択 (Select Software Version)]** ステップに進みます。
- d) **[ソフトウェアバージョンの選択 (Select Software Version)]** : アプライアンスソフトウェアの最新バージョンをダウンロードするオプションがあります。または、インストーラのバージョンと同じか、インストーラのバージョンより大きい、サポートされている他のバージョンのソフトウェアをアップロードできます。
- a) アプライアンスソフトウェアの最新バージョンをダウンロードするには、**[最新バージョンのダウンロード (Download Latest Version)]** ボタンを選択し、**[完了 (Finish)]** をクリックして、**[インストールの結果 (Installation Result)]** 画面に進みます。
- b) アプライアンスソフトウェアのバージョンをアップロードするには、ソフトウェアパッケージの保存場所に応じて、**[ローカルマシン (Local Machine)]** または **[ネットワーク共有 (Network Share)]** を選択します。

(注) Intersight Connected Virtual Appliance を手動で更新、インストール、または復元するには、アプライアンスアカウントにアクセスして、必要なソフトウェアパッケージをダウンロードする必要があります。詳細については、[ソフトウェアパッケージをダウンロードするためのアプライアンスアカウントの作成 \(19 ページ\)](#) および [Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード \(20 ページ\)](#) を参照してください。

- **[ローカルマシン (Local Machine)]** で、ソフトウェアイメージを保存した場所を参照し、**[完了 (Finish)]** をクリックして、**[インストール結果 (Installation Result)]** 画面に進みます。
- **[ネットワーク共有 (Network Share)]** オプションの場合は、プロトコルを入力し、ファイルのコピー元であるリモートサーバーの詳細を入力して、**[完了 (Finish)]** をクリックして、**[インストール結果 (Installation Result)]** 画面に進みます。
 - **[プロトコル (Protocol)]** : ファイル転送に使用される通信プロトコル。SCP (Secure Copy Protocol) および SFTP (Secure File Transfer Protocol) がサポートされています。
 - **[サーバ IP/ホスト名 (Server IP/Hostname)]** : ファイルのコピー元のホストサーバー
 - **[ポート (Port)]** : 使用する TCP ポート
 - **[場所 (Location)]** : コピーするファイルが保存されているディレクトリ
 - **[ファイル名 (Filename)]** : ネットワーク共有からコピーするファイルの名前
 - **[ユーザ名 (Username)]** : ネットワーク共有で認証するためのユーザー名
 - **[パスワード (Password)]** : ネットワーク共有で認証するためのパスワード

- c) **[インストール結果 (Installation Result)]** : この画面でインストールの進行状況を確認できます。

ステップ 4 [データ収集 (Data Collection)] を指定します。

Intersight がシスコに追加のシステム情報を送信できるようにする設定を指定します。このオプションは、デフォルトで有効です。Intersight でどんなデータが収集されるかの詳細については、[Intersight 接続型仮想アプライアンスから収集されたデータ](#) を参照してください。

ステップ 5 [ライセンスの登録 (Register License)] をクリックします。

Cisco Smart License Manager からライセンス登録トークンを取得し、トークンを適用して追加し、ライセンスをアクティブにします。ライセンスの登録プロセスは完了するまでに数分かかる場合があります。Intersight ライセンスの登録の詳細については、「[Cisco Intersight ライセンスの階層と登録 \(Cisco Intersight Licensing Tiers and Registration\)](#)」を視聴してください。

[完了 (Finish)] をクリックすると、Intersight 接続型仮想アプライアンス ダッシュボードが表示されます。

次のタスク

単一ノードの Intersight 仮想アプライアンスの初期セットアップが正常に完了したら、ノードを追加してマルチノードクラスタを作成できます。詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタの構成 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

シングルノード Intersight プライベート仮想アプライアンスのセットアップ

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、オープン仮想アプライアンス (OVA) ファイル形式、ZIP ファイル形式、または TAR ファイル形式で含まれている展開可能な仮想マシンとして配布されます。

始める前に: 「[VMware vSphere 上の Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール](#)」の手順に従って、Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアがインストールされていることを確認します。

Cisco Intersight 仮想アプライアンス ソフトウェアの展開が完了し、VM の電源がオンになったら、<<<https://your fqdn.com>>> URL をクリックします。[Intersight あぶらインす インストーラ (Intersight Appliance Installer)] 画面が表示され、新規インストール、バックアップからのアプライアンスソフトウェアの回復、またはアプライアンスへのノードの追加のいずれかのセットアップを完了できます。

ウィザードで、ソフトウェアパッケージをダウンロードしてインストールする一連の手順を実行します。インストールの進行状況は確認できます。

次の手順を使用して、Intersight プライベート仮想アプライアンスのセットアップを完了します。

ステップ 1 [Intersight アプライアンスインストーラ (Intersight Appliance Installer)] 画面で、[Intersight プライベート仮想アプライアンス (Intersight Private Virtual Appliance)] を選択し、[開始 (Start)] をクリックして、単一ノードのプライベート仮想アプライアンスのセットアップを続行します。

[ソフトウェアのアップロード (Upload Software)] ページが表示されます。インストーラのバージョンと同じか、インストーラのバージョンより大きいソフトウェアのサポートされているバージョンをアップロードできます。

ステップ 2 Intersight アプライアンス インストーラ のセットアップ ウィザードで、次の手順を実行します。

- a) **[ネットワーク要件の確認 (Check Network Requirements)]** : 結果を表示し、**[次へ (Next)]** をクリックして、**[内部ネットワークの構成 (Configure Internal Network)]** ステップに進みます。

ネットワーク要件のチェック中に、いずれかの DNS テストが失敗した場合は、設定を続行できないことに注意してください。

- b) **[内部ネットワークの設定 (Configure Internal Network)]** : 必要に応じて、デフォルトの内部ネットワーク IP アドレスを変更し、**[次へ (Next)]** をクリックして **[ソフトウェアのアップロード (Upload Software)]** ステップに進みます。

- c) **[ソフトウェアのアップロード (Upload Software)]** : インストーラのバージョンと同じか、インストーラのバージョンより大きいソフトウェアのサポートされているバージョンをアップロードできます。

ソフトウェア パッケージの保存場所に応じて、**[ローカル マシン (Local Machine)]** または **[ネットワーク共有 (Network Share)]** を選択します。

(注) Intersight プライベート仮想アプライアンスの展開を完了するには、必要なソフトウェアパッケージをダウンロードできるようにアプライアンス アカウントにアクセスする必要があります。詳細については、[ソフトウェア パッケージをダウンロードするためのアプライアンス アカウントの作成 \(19 ページ\)](#) および [Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェア パッケージのダウンロード \(20 ページ\)](#) を参照してください。

- **[ローカル マシン (Local Machine)]** で、ソフトウェア イメージを保存した場所を参照し、**[完了 (Finish)]** をクリックして、**[インストール結果 (Installation Result)]** 画面に進みます。
- **[ネットワーク共有 (Network Share)]** オプションの場合は、プロトコルを入力し、ファイルのコピー元であるリモートサーバーの詳細を入力して、**[完了 (Finish)]** をクリックして、**[インストール結果 (Installation Result)]** 画面に進みます。
 - **[プロトコル (Protocol)]** : ファイル転送に使用される通信プロトコル。SCP (Secure Copy Protocol) および SFTP (Secure File Transfer Protocol) がサポートされています。
 - **[サーバ IP/ホスト名 (Server IP/Hostname)]** : ファイルのコピー元のホスト サーバー
 - **[ポート (Port)]** : 使用する TCP ポート
 - **[場所 (Location)]** : コピーするファイルが保存されているディレクトリ
 - **[ファイル名 (Filename)]** : ネットワーク共有からコピーするファイルの名前
 - **[ユーザ名 (Username)]** : ネットワーク共有で認証するためのユーザー名
 - **[パスワード (Password)]** : ネットワーク共有で認証するためのパスワード

- d) **[インストール結果 (Installation Result)]** : この画面でインストールの進行状況を確認できます。

ステップ 3 **[Intersight仮想アプライアンスの接続 (Intersight Virtual Appliance Connect)]** ページにログインします。ユーザー名として **admin** を使用し、インストールプロセス中に設定したパスワードを入力します。

ステップ 4 **[ライセンス登録 (Register License)]** プロセスを完了します。

1. このページで取得した予約要求コードを使用し、[Cisco Smart Software Manager](#) で予約承認コードを生成します。
2. **Cisco Smart Software Manager** で生成した予約承認コードをコピーし、[ライセンスの予約 (Reserve License)] ページに貼り付けます。
3. [インストール (Install)] をクリックします。

ライセンスの予約プロセスは完了するまでに数分かかる場合があります。Intersight ライセンス階層および登録に関する詳細は、『[Cisco Intersight ライセンス階層および登録](#)』をご覧ください。

[閉じる (Close)] をクリックすると、Cisco Intersight プライベート仮想アプライアンス ダッシュボードが表示されます。

次のタスク

単一ノードの Intersight 仮想アプライアンスの初期セットアップが正常に完了したら、ノードを追加してマルチノードクラスタを作成できます。詳細については、[Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタの構成 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

Intersight アプライアンス アシストのセットアップ

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、オープン仮想アプライアンス (OVA) ファイル形式、ZIP ファイル形式、または TAR ファイル形式で含まれている展開可能な仮想マシンとして配布されます。

始める前に: 「[VMware vSphere 上の Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール](#)」の手順に従って、Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアがインストールされていることを確認します。

Cisco Intersight 仮想アプライアンス ソフトウェアの展開が完了し、VM の電源がオンになったら、<<<https://your fqdn.com>>> URL をクリックします。[Intersight あぷらインす インストーラ (Intersight Appliance Installer)] 画面が表示され、新規インストール、バックアップからのアプライアンスソフトウェアの回復、またはアプライアンスへのノードの追加のいずれかのセットアップを完了できます。

ウィザードで、ソフトウェアパッケージをダウンロードしてインストールする一連の手順を実行します。インストールの進行状況は確認できます。

次の手順を使用して Intersight Assist のセットアップを実行します。

- ステップ 1 1.[Intersight アプライアンス インストーラ (Intersight Appliance Installer)] 画面で [Intersight Assist] を選択し、[開始 (Start)] をクリックします。
- ステップ 2 Cisco ID を使用して、[Intersight 仮想アプライアンスの接続 (Intersight Virtual Appliance Connect)] ページにログインします。シスコ ID をお持ちでない場合は[こちら](#)から作成してください。

1. (オプション) **[設定 (Settings)]** をクリックして HTTPS プロキシ設定を有効にします。
インターネットへ Cisco Intersight 仮想アプライアンスを接続するのに HTTP/S プロキシが必要な場合は、接続手順を実行する前にプロキシ設定を構成する必要があります。
 - **[設定 (Settings)]** をクリックして **[HTTPS プロキシ (HTTPS Proxy)]** オプションを有効にします。
 - プロキシ ホスト名または IP アドレスとプロキシ ポートを追加します。
プロキシ ポートは、1 ~ 65535 の範囲にする必要があります。アプライアンスの UI の **[システム (System)]** > **[設定 (Settings)]** > **[ネットワーク (NETWORKING)]** > **[クラウド接続 (Cloud Connection)]** からプロキシの設定を編集することができます。
2. **[接続 (Connect)]** ページに表示されている **デバイス ID** と **要求コード** を使用して Intersight への接続を実行します。
3. **[接続 (Connection)]** のステータスに **[要求済み (Claimed)]** と表示されていることを確認します。

(注) 新しいブラウザ タブが表示され、Intersight でのデバイスの要求ステータスが示されます。Intersight アカウントを持っていない場合は、**[アカウント作成 (Account Creation)]** ウィンドウでアカウントを作成し、ターゲットを要求することができます。ターゲット接続に成功すると、成功メッセージが表示されます。**[閉じる (Close)]** タブをクリックしてタブを終了し、Intersight 仮想アプライアンスのセットアップ ウィザードに戻ります。ターゲット要求が失敗した場合は、Intersight へのログイン画面が表示され、ターゲットを要求するワークフローが再開されます。

ステップ 3 Intersight アプライアンス インストーラ のセットアップ ウィザードで、次の手順を実行します。

- a) **[接続 (Connect)]** : **[続行 (Continue)]** をクリックして、**[ネットワーク要件の確認 (Check Network Requirements)]** ステップに進みます。
- b) **[ネットワーク要件の確認 (Check Network Requirements)]** : 結果を表示し、**[次へ (Next)]** をクリックして、**[内部ネットワークの構成 (Configure Internal Network)]** ステップに進みます。
ネットワーク要件の確認中に DNS テストが失敗した場合は、構成を続行できないことに注意してください。
- c) **[内部ネットワークの構成 (Configure Internal Network)]** : 必要に応じて、デフォルトの内部ネットワーク IP アドレスを変更し、**[次へ (Next)]** をクリックして **[インストール結果 (Installations Results)]** 画面に進みます。
- d) **[インストール結果 (Installation Result)]** : この画面でインストールの進行状況を確認できます。

Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタの構成

インターサイト仮想アプライアンスのマルチノードクラスタにより、高可用性、安定性の向上、および回復力の向上が可能になります。VMware vSphere のシングルノードアプライアンスの初期セットアップが完了したら、追加ノードを加えることができます。2つの追加ノードを正常に追加したら、Intersight 仮想アプライアンスでマルチノードクラスタを作成できます。



(注) マルチノードクラスタ構成は、VMware vSphere のインストーラーでのみサポートされることに注意してください。



重要 Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタを設定すると、単一ノードインスタンスに戻すことはできません。

要件：

- 単一ノードアプライアンスの初期セットアップを完了した後にのみ、アプライアンスのマルチノードクラスタをセットアップできます。次のタスクの手順に従って、単一ノードの Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアがセットアップされていることを確認します。
 - [シングルノード Intersight 接続型仮想アプライアンスのセットアップ](#)
 - [シングルノード Intersight プライベート仮想アプライアンスのセットアップ](#)
- アプライアンスの初期設定が完了したら、いつでもマルチノードクラスタを設定できます。
- インターサイト仮想アプライアンスでマルチノードクラスタを作成するために追加のノードを追加できるようにするには、最初のノードが**操作可能な状態**になっている必要があります。

接続した仮想アプライアンスおよびプライベート仮想アプライアンスのマルチノードクラスタを設定するには、次の手順を実行します：

ステップ 1 VM を使用して <<<https://myhost2.mydomain.com/> URL にアクセスします。

ステップ 2 [Intersight アプライアンスインストーラー (Intersight Appliance Installer)] 画面で、[ノードをアプライアンスに追加 (Add Node to Appliance)] タブをクリックします。

ステップ 3 [ノードをアプライアンスに追加 (Add Node to Appliance)] ページで次のフィールドの詳細を入力して[終了 (Finish)] をクリックします。

- [アプライアンス ホスト名/IP アドレス (Appliance Hostname/IP Address)] — ノードが追加される既存のスタンドアロンアプライアンスのホスト名または IP アドレス。
- [アプライアンス ユーザー名 (Appliance Username)] — 既存のスタンドアロンアプライアンスの管理ユーザー名。
- [管理ユーザー パスワード (Admin User Password)] — 既存のスタンドアロンアプライアンスの管理パスワード。

二つ目のノード (node2) が正常に追加されると、クラスタに参加する準備が整います。

この時点で、クラスタを作成できるように 3 番目のノード (node3) を追加できます。

ステップ 4 手順 1、2、および 3 の手順を繰り返して、node3 を追加します。

ステップ 5 node3 が正常に追加されたら、[アプライアンス ポータルに移動 (Go to Appliance Portal)] をクリックしてアプライアンスに進みます。

ステップ 6 <<https:// myhost1.mydomain.com>> にログインします。

ステップ 7 [サーバー セレクタ (Service Selector)] ドロップダウン リストから [システム (System)] を選択し、[設定 (Settings)] > [一般 (GENERAL)] > [アプライアンス (Appliance)] に移動します。

node2 と node3 が[参加準備完了 (Ready to Join)] 状態であることを確認します。

ステップ 8 [クラスタの作成 (Create Cluster)] をクリックします。

重要 クラスタを作成する操作は元に戻すことができません。

クラスタ作成ワークフローの実行中、アプライアンスはメンテナンスモードに切り替わることに注意してください。進行状況ページが読み込まれるまで 5 ~ 10 分かかります。その後、[マルチノードクラスターの作成結果 (Multi-Node Cluster Creation Results)] ページでクラスター作成の進行状況を確認できます。また、ノード 2 とノード 3 でのクラスタ作成の進行状況を表示することもでき、すぐに利用できます。

セットアップが完了すると、ログイン画面が表示されます。

ステップ 9 [インターサイト仮想アプライアンスの接続 (Intersight Virtual Appliance Connect)] ページにログインします。

ユーザー名として **admin** を使用し、初期の単一ノードアプライアンスセットアップ中に設定したパスワードを入力します。この時点で、node2 と node3 にもログインできます。

1 つのノードがダウンすると、マルチノードクラスタは完全に動作します。1 つのノードがダウンすると、アプライアンスは自動的に安定します。移行段階では、アプライアンスにアクセスできない場合があります。

2 つのノードがダウンすると、マルチノードクラスタはメンテナンスモードに移行します。この状態の間、システムは動作しません。

ノードが起動すると、マルチノードクラスタは自動的に [動作可能 (Operational)] になります。

既存のシングルノード展開からマルチノードクラスタ構成への移行パス

既存の単一ノードの Intersight 仮想アプライアンス展開をマルチノード クラスタ構成に拡張するには、次の手順を実行します。

1. アプライアンスのバックアップを作成します。
詳細については、「[バックアップの作成 \(Creating Backup\)](#)」を参照してください。
2. Intersight 仮想アプライアンスを回復します。
詳細については、「[Intersight 接続型仮想アプライアンスのリカバリ](#)」と「[Intersight プライベート仮想アプライアンスのリカバリ](#)」を参照してください。

既存の単一ノード展開用のマルチノードクラスタの構成が正常に完了したら、次のリンクの情報をを使用して、マルチノードクラスタの追加構成を実行します。

- [シングルサインオン](#)
- [SSL 証明書](#)

Intersight 接続型仮想アプライアンスのリカバリ

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、オープン仮想アプライアンス (OVA) ファイル形式、ZIP ファイル形式、または TAR ファイル形式で含まれている展開可能な仮想マシンとして配布されます。

接続型仮想アプライアンス構成を復元するには、初期セットアップ時にバックアップファイルからデータを復旧します。

始める前に: 「[VMware vSphere 上の Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール](#)」の手順に従って、Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアがインストールされていることを確認します。

Cisco Intersight 仮想アプライアンス ソフトウェアの展開が完了し、VM の電源がオンになったら、<<<https://your fqdn.com>>> URL をクリックします。[**インストーラ オプション (Installer Options)**] 画面が表示され、新規インストールのセットアップを完了したり、バックアップからアプライアンス ソフトウェアを回復したりできます。

ウィザードで、ソフトウェアパッケージをダウンロードしてインストールする一連の手順を実行します。リカバリの進行状況は確認できます。

次の手順を使用して、バックアップ ファイルから構成をリカバリします。

ステップ 1 [インストーラ オプション (Installer Options)] 画面で、[バックアップからリカバリ (Recover from Backup)] タブを選択し、[スタート (Start)] をクリックします。

ステップ 2 [バックアップの選択 (Select Backup)] ページでプロトコルを選択し、バックアップ データをリカバリするリモート サーバーの詳細を入力します。

- [プロトコル (Protocol)] : バックアッププロセスで使用される通信プロトコルのオプション。現時点で Intersight 仮想アプライアンスがバックアップでサポートしているプロトコルは SCP (Secure Copy Protocol) と SFTP (Secure File Transfer Protocol) です。
- [サーバ IP/ホスト名 (Server IP/Hostname)] : バックアップ データのリカバリ元のホスト
- [ポート (Port)] : バックアップ サーバーの TCP ポート
- [場所 (Location)] : バックアップ ファイルを保存するディレクトリ
- [ファイル名 (Filename)] : 復元するバックアップ ファイルの名前
- [ユーザ名 (Username)] : バックアップサーバーでバックアップクライアントを認証するためのユーザー名
- [パスワード (Password)] : バックアップサーバーでバックアップクライアントを認証するためのパスワード

ステップ 3 [次へ (Next)] をクリックします。

重要 復元プロセスは一度開始すると変更できません。

ステップ 4 ポップアップ上で [続行 (Continue)] をクリックします。

ステップ 5 [ソフトウェアバージョンの選択 (Select Software Version)] ページには、アプライアンス ソフトウェアの最新バージョンをダウンロードするオプションがあります。または、インストーラのバージョンと同じか、インストーラのバージョンより大きい、サポートされている他のバージョンのソフトウェアをアップロードできます。

- a) アプライアンス ソフトウェアの最新バージョンをダウンロードするには、[最新バージョンのダウンロード (Download Latest Version)] ボタンを選択し、[完了 (Finish)] をクリックします。
- b) アプライアンス ソフトウェアのバージョンをアップロードするには、ソフトウェアパッケージの保存場所に応じて、[ローカル マシン (Local Machine)] または [ネットワーク共有 (Network Share)] を選択します。

(注) Intersight 接続型仮想アプライアンスを手動で復元するには、アプライアンスアカウントにアクセスして、必要なソフトウェアパッケージをダウンロードする必要があります。詳細については、[ソフトウェアパッケージをダウンロードするためのアプライアンスアカウントの作成 \(19 ページ\)](#) および [Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード \(20 ページ\)](#) を参照してください。

- [ローカル マシン (Local Machine)] で、ソフトウェア イメージを保存した場所を参照し、[完了 (Finish)] をクリックします。

- [ネットワーク共有 (Network Share)] オプションの場合は、プロトコルを入力し、ファイルのコピー元であるリモート サーバーの詳細を入力して、[完了 (Finish)] をクリックします。
 - [プロトコル (Protocol)] : ファイル転送に使用される通信プロトコル。SCP (Secure Copy Protocol) および SFTP (Secure File Transfer Protocol) がサポートされています。
 - [サーバ IP/ホスト名 (Server IP/Hostname)] : ファイルのコピー元のホスト サーバー
 - [ポート (Port)] : 使用する TCP ポート
 - [場所 (Location)] : コピーするファイルが保存されているディレクトリ
 - [ファイル名 (Filename)] : ネットワーク共有からコピーするファイルの名前
 - [ユーザ名 (Username)] : ネットワーク共有で認証するためのユーザー名
 - [パスワード (Password)] : ネットワーク共有で認証するためのパスワード

[リカバリ結果 (Recovery Results)] ページでリカバリの進行状況を確認できます。リカバリ プロセスが完了すると、Cisco Intersight 接続型仮想アプライアンス ダッシュボードが表示されます。

次のタスク

マルチノードクラスタ 展開のリカバリをするには : マルチノードクラスタ展開からバックアップからリカバリをする場合、まず node1 でリカバリしてから、[Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタの構成 \(8 ページ\)](#) の手順にしたがいマルチノードクラスタを作成するために 2 つの追加ノードを加えます。

Intersight プライベート仮想アプライアンスのリカバリ

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、オープン仮想アプライアンス (OVA) ファイル形式、ZIP ファイル形式、または TAR ファイル形式で含まれている展開可能な仮想マシンとして配布されます。

プライベート仮想アプライアンス構成を復元するには、初期セットアップ時にバックアップファイルからデータを復旧します。

始める前に: 「[VMware vSphere 上の Cisco Intersight 仮想アプライアンスおよび Intersight Assist のインストール](#)」の手順に従って、Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアがインストールされていることを確認します。

Cisco Intersight 仮想アプライアンス ソフトウェアの展開が完了し、VM の電源がオンになったら、<<<https://your fqdn.com>>> URL をクリックします。[インストーラ オプション (Installer Options)] 画面が表示され、新規インストールのセットアップを完了したり、バックアップからアプライアンス ソフトウェアを回復したりできます。

ウィザードで、ソフトウェアパッケージをダウンロードしてインストールする一連の手順を実行します。リカバリの進行状況は確認できます。

次の手順を使用して、バックアップ ファイルから構成をリカバリします。

ステップ 1 [インストーラ オプション (Installer Options)] 画面で、[バックアップからリカバリ (Recover from Backup)] タブを選択し、[スタート (Start)] をクリックします。

ステップ 2 [バックアップの選択 (Select Backup)] ページでプロトコルを選択し、バックアップ データをリカバリするリモート サーバーの詳細を入力します。

- [プロトコル (Protocol)] : バックアッププロセスで使用される通信プロトコルのオプション。現時点で Intersight 仮想アプライアンスがバックアップでサポートしているプロトコルは SCP (Secure Copy Protocol) と SFTP (Secure File Transfer Protocol) です。
- [サーバ IP/ホスト名 (Server IP/Hostname)] : バックアップ データのリカバリ元のホスト
- [ポート (Port)] : バックアップ サーバーの TCP ポート
- [場所 (Location)] : バックアップ ファイルを保存するディレクトリ
- [ファイル名 (Filename)] : 復元するバックアップ ファイルの名前
- [ユーザ名 (Username)] : バックアップサーバーでバックアップクライアントを認証するためのユーザ名
- [パスワード (Password)] : バックアップサーバーでバックアップクライアントを認証するためのパスワード

ステップ 3 [次へ (Next)] をクリックします。

重要 復元プロセスは一度開始すると変更できません。

ステップ 4 ポップアップ上で [続行 (Continue)] をクリックします。

ステップ 5 [ソフトウェアバージョンの選択 (Select Software Version)] ページでは、インストーラのバージョンと同じか、インストーラのバージョンより大きい、サポートされている他のバージョンのソフトウェアをアップロードできます。

(注) Intersight プライベート仮想アプライアンスを手動で復元するには、必要なソフトウェアパッケージをダウンロードできるようにアプライアンスアカウントにアクセスする必要があります。詳細については、[ソフトウェアパッケージをダウンロードするためのアプライアンスアカウントの作成 \(19 ページ\)](#) および [Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード \(20 ページ\)](#) を参照してください。

- [ローカル マシン (Local Machine)] で、ソフトウェア イメージを保存した場所を参照し、[完了 (Finish)] をクリックします。
- [ネットワーク共有 (Network Share)] オプションの場合は、プロトコルを入力し、ファイルのコピー元であるリモートサーバーの詳細を入力して、[完了 (Finish)] をクリックします。
 - [プロトコル (Protocol)] : ファイル転送に使用される通信プロトコル。SCP (Secure Copy Protocol) および SFTP (Secure File Transfer Protocol) がサポートされています。
 - [サーバ IP/ホスト名 (Server IP/Hostname)] : ファイルのコピー元のホスト サーバー

- [ポート (Port)] : 使用する TCP ポート
- [場所 (Location)] : コピーするファイルが保存されているディレクトリ
- [ファイル名 (Filename)] : ネットワーク共有からコピーするファイルの名前
- [ユーザ名 (Username)] : ネットワーク共有で認証するためのユーザー名
- [パスワード (Password)] : ネットワーク共有で認証するためのパスワード

[リカバリ結果 (Recovery Results)] ページでリカバリの進行状況を確認できます。リカバリプロセスが完了すると、Cisco Intersight プライベート仮想アプライアンス ダッシュボードが表示されます。

次のタスク

マルチノードクラスタ 展開のリカバリをするには : マルチノードクラスタ展開からバックアップからリカバリをする場合、まず node1 でリカバリしてから、[Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタの構成 \(8 ページ\)](#) の手順にしたがいマルチノードクラスタを作成するために 2 つの追加ノードを加えます。

Intersight 仮想アプライアンスのマルチノードクラスタのノードを交換

マルチノードクラスタ内のノードが[障害 (Impaired)] になった場合、またはステータスが[不明 (Unknown)] になった場合は、既存のクラスタに別のノードを追加することで、欠陥のあるノードを置き換えることができます。

既存のクラスタ内の欠陥のあるノードを交換するには、次の手順を実行します :

- ステップ 1 操作可能なマルチノードクラスタ内のノードにログインします。
- ステップ 2 [サーバーセレクタ (Service Selector)] ドロップダウンリストから [システム (System)] を選択し、[設定 (Settings)] > [一般 (GENERAL)] > [アプライアンス (Appliance)] に移動します。
- ステップ 3 [ノード (Node)] の下のテーブルで、次の手順を実行します。
 1. [障害 (Impaired)] または [不明 (Unknown)] ステータスを表示するノードの行で、[省略記号 (ellipses)] をクリックします。
 2. [ノードの置換 (Replace Node)] をクリックします。このノードのステータスは、[アウトオブサービス (Out of Service)] として表示されます。
- ステップ 4 VMware vSphere、Microsoft Hyper-V サーバー、または KVM ハイパーバイザーのインストールから障害のあるノードをパワーオフして削除します。

ステップ 5 欠陥のあるノードと同じドメインネームシステム (DNS) ドメイン値を使用して、新しい OVA を展開します。

アプライアンスのインストールと展開の詳細については、[\[インストール \(Installation\)\]](#) の章を参照してください。

ステップ 6 <<https://fqdn-of-your-appliance.com>> URL を使用して VM にアクセスします。

ステップ 7 [インストーラー オプション] 画面で、[ノードをアプライアンスに追加] タブをクリックします。

ステップ 8 [ノードをアプライアンスに追加 (Add Node to Appliance)] ページで次のフィールドの詳細を入力して [終了 (Finish)] をクリックします。

- [アプライアンス ホスト名/IP アドレス (Appliance Hostname/IP Address)] : ノードが追加される既存のアプライアンス VM のホスト名または IP アドレスが追加されます。
- [アプライアンス ユーザー名 (Appliance Username)] : 既存のアプライアンス VM の管理ユーザー名。
- [管理ユーザー パスワード (Admin User Password)] : 既存のアプライアンス VM の管理パスワード。

ノードが正常に追加されると、クラスタに参加する準備が整います。

ステップ 9 運用ノードの 1 つにログインします。

ステップ 10 運用ノードの [アプライアンス ポータルに移動 (Go to Appliance Portal)] をクリックし、アプライアンスに進みます。

ステップ 11 [設定 (Settings)] アイコン > [設定 (Settings)] > [一般 (General)] > [アプライアンス (Appliance)] に移動します。

ステップ 12 クラスタに参加する準備ができていないノードの行で、次の手順を実行します。

1. 省略記号をクリックします。
2. [クラスタに参加 (Join Cluster)] をクリックします。
3. ポップアップ画面で、[参加 (Join)] をクリックします。

ワークフローの進行状況をモニタリングできます。ワークフローが正常に実行されると、置き換えられたノードは完全に動作可能になります。

Cisco Intersight 仮想アプライアンスのハイアベイラビリティおよびディザスタリカバリ

Cisco Intersight 仮想アプライアンスは、ハイアベイラビリティ (HA) およびディザスタリカバリ (DR) の移行アーキテクチャをサポートします。

Intersight 仮想アプライアンスを正常に移行するには、次の要件を満たす必要があります。

- Intersight 仮想アプライアンスに完全修飾ドメイン名 (FQDN) があります。Intersight 仮想アプライアンスを移行するには、アプライアンスの FQDN (ホスト名) を同じままにする必要があります。
- Intersight 仮想アプライアンスとその管理対象エンドポイント間のネットワーク接続を維持する必要があります。

Intersight 仮想アプライアンスのハイアベイラビリティ

ベンダーが提供するソリューションを活用して、Intersight 仮想アプライアンスでハイアベイラビリティ (HA) 機能を提供できます。

VMware vSphere に展開された Intersight 仮想アプライアンス — Intersight 仮想アプライアンスは VMware ハイアベイラビリティ (VMHA) をサポートしており、仮想アプライアンスの動作が中断しないことを保証します。VMware HA の詳細については、VMware の Web サイトで関連するドキュメントを参照してください。

Microsoft Hyper-V Server に展開された Intersight 仮想アプライアンス — Intersight 仮想アプライアンスは Microsoft Hyper-V ハイアベイラビリティ (VMHA) をサポートしており、仮想アプライアンスの動作が中断しないことを保証します。Microsoft Hyper-V は、ホストサーバーで実行されているワークロードを保護するためのフェイルオーバー クラスタリング ハイアベイラビリティ ソリューションを提供し、それによってアプライアンスを保護します。フェールオーバー クラスタリング機能により、ユーザーはサービスの中断を最小限に抑えることができます。Microsoft Hyper-V HA の詳細については、Microsoft のウェブサイトの関連ドキュメントを参照してください。

KVM ハイパーバイザーに展開された Intersight 仮想アプライアンス — KVM は、複数のオペレーティングシステム (OS) ベンダーによってサポートされています。最も一般的な OS ベンダーは、Red-Hat Virtualization と Ubuntu です。ハイアベイラビリティの特定のソリューションについては、OS ベンダーが提供するドキュメントを参照してください。

Intersight 仮想アプライアンスのディザスタリカバリ

ディザスタリカバリには、Intersight 仮想アプライアンスまたはその他のサードパーティ ソリューションの既存のバックアップと復元機能を使用できます。

Intersight 仮想アプライアンスでのバックアップと復元

シスコでは、Intersight 仮想アプライアンスの定期的なバックアップを取ることを強くお勧めしています。

Intersight 仮想アプライアンスのバックアップについては、「[データのバックアップ](#)」を参照してください。

Intersight 接続型仮想アプライアンスの復元については、「[Intersight 接続型仮想アプライアンスのリカバリ](#)」を参照してください。

Intersight プライベート仮想アプライアンスの復元については、「[Intersight プライベート仮想アプライアンスのリカバリ](#)」を参照してください。

サードパーティのディザスタリカバリ ソリューション

仮想マシンのディザスタリカバリ構成では、ベンダーが提供するソリューションを使用してディザスタリカバリ機能を強化できます。構成の詳細については、ベンダー固有の構成マニュアルを参照してください。

VMware のディザスタリカバリ ソリューション

- **VMware スナップショット** — Intersight 仮想アプライアンスのバックアップおよび復元機能に加えて、VMware では、仮想マシンの状態とデータを保持するための VM スナップショットも使用できます。状態の保持には VM の電源状態が含まれ、データの保持には、ディスク、メモリなどデバイスの仮想ネットワーク インターフェイス カードを含むすべてのファイルが含まれます。VM スナップショットを作成する前に、アプライアンス (VM) の電源をオフにすることを強くお勧めします。VM スナップショットの詳細については、VMware の Web サイトで関連ドキュメントを参照してください。
- **VMware vSphere 上に展開された Intersight 仮想アプライアンス** — VMware には、ディザスタリカバリのためのソリューションがいくつかあります。
 - VMware-SRM (VMware Site Recovery Manager)
 - VMware-VRS (VMware vSphere Replication)

Microsoft Hyper-V のディザスタリカバリ ソリューション

Microsoft Hyper-V には、効率的な VM ディザスタリカバリを提供する一連の組み込み機能が含まれています。Hyper-V 仮想マシンのディザスタリカバリは、VM をバックアップまたはレプリケートすることによって実行できます。どちらのオプションにも、ディザスタリカバリ計画を作成する際に考慮すべき特定の側面があります。詳細については、Microsoft の Web サイトの関連ドキュメントを参照してください。

KVM ハイパーバイザのディザスタリカバリ ソリューション

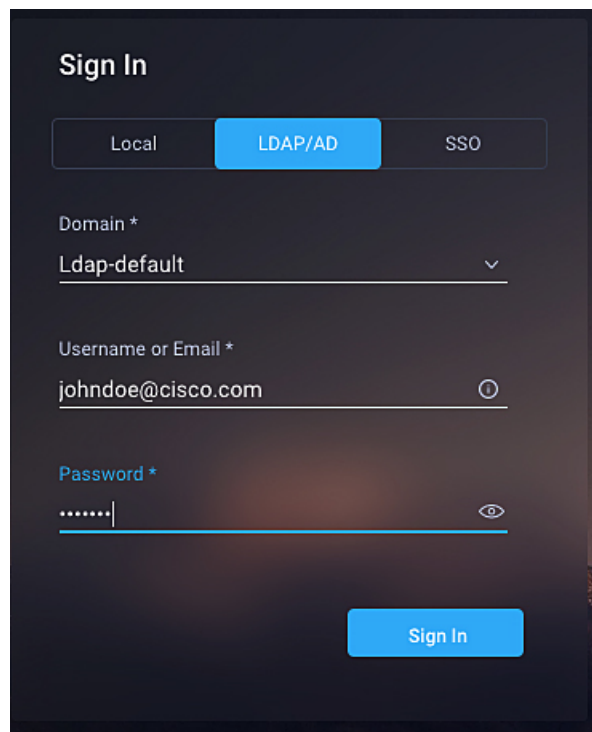
KVM は、複数のオペレーティングシステム (OS) ベンダーによってサポートされています。最も一般的な OS ベンダーは、Red Hat Virtualization と Ubuntu です。KVM 上に展開された Intersight 仮想アプライアンスのディザスタリカバリ専用ソリューションについては、OS ベンダーが提供するドキュメントを参照してください。

その他の承認されたサードパーティ製ディザスタリカバリ ソリューションについては、サードパーティのインストールマニュアルを参照してください。

Intersight 仮想アプライアンスにログイン

Intersight 仮想アプライアンスにログイン

Intersight 仮想アプライアンスをインストールした後、次に説明するいずれかの方法でユーザーとしてアプライアンスにログインできます。[LDAP/AD] タブと [SSO] タブは、アカウントの LDAP 設定または SSO を設定した後に表示されます。



Sign In

Local **LDAP/AD** SSO

Domain *
Ldap-default

Username or Email *
johndoe@cisco.com

Password *
.....

Sign In

- **[ローカル ユーザ (Local User)]**: ユーザー名として **admin** を使用し、アプライアンスの登録時に設定したものと同一パスワードを使用します。登録時に設定したパスワードが脆弱である場合、Interswitch はパスワードをより強力なものに変更するように要求します。強力なパスワードに正常にリセットされると、アプライアンスに直接ログインします。Intersight は、ローカルユーザー (admin) を 1 つだけサポートします。
- **[LDAP/AD]**: 設定した LDAP ドメインを選択し、**ユーザー名**または**電子メール**と、LDAP サーバーで設定したパスワードを入力します。ログインに使用するユーザー名は、LDAP サーバーでユーザに対して設定した **sAMAccountName** と同じである必要があります。詳細については、「[LDAP 設定](#)」、「[ユーザーの追加](#)」および「[グループの追加 \(Add Groups\)](#)」を参照してください。
- **[SSO]**: ID プロバイダーで SSO を設定するために使用した電子メール ID を入力します。シングルサインオン (SSO) 認証では複数のアプリケーションへのログインに 1 つのクレデンシャルセットを使用できます。SSO の詳細については、「[SSO のセットアップ](#)」を参照してください。

[ローカル ユーザのみの場合 (For Local User Only)]: ユーザー名またはパスワードが正しくないためにローカルユーザー ログインが失敗した場合、失敗したログイン情報の詳細が監査ログに記録されます。アプライアンスに正常にログインすると、監査ログにある失敗したログインの詳細を表示できます。

ソフトウェアパッケージをダウンロードするためのアプライアンス アカウントの作成

Intersight プライベート仮想アプライアンスの展開を完了する、または Intersight 接続型仮想アプライアンスを手動で更新するには、Intersight 仮想アプライアンス、HyperFlex、または Cisco UCS Director ソフトウェア パッケージをダウンロードできるように、アプライアンス アカウントにアクセスする必要があります。



(注) アプライアンスアカウントの更新を定期的に確認し、Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアの最新バージョンを使用することを強くお勧めします。Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアは、新機能と拡張機能を含むように継続的に改善されているためです。また、製品の「N-3」ソフトウェアバージョンのみがサポートされ、「N」がアプライアンスソフトウェアの最新バージョンであることに注意することも重要です。

インストール用に手動でアップロードするソフトウェアのバージョンが、常に実行中のバージョンよりも高いことを確認します。

このタスクの手順を使用して、アプライアンスアカウントを作成します。

ステップ 1 Cisco ID を使用して <https://www.intersight.com/pvapp> にログインしてください。シスコ ID をお持ちでない場合は [こちら](#) から作成してください。

注：プライベート仮想アプライアンスアカウントを作成する場合にのみ、<https://www.intersight.com/pvapp> にログインする必要があります。アプライアンスアカウントを作成したら、Intersight にログインすることでアカウントにアクセスできます。

ステップ 2 オファーの説明に同意し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 3 [アプライアンス アカウントの作成 (Appliance Account Creation)] 画面でアプライアンス アカウントの名前を入力します。

ステップ 4 [作成 (Create)] をクリックします。

アプライアンスアカウントが正常に作成されたら、Intersight にログインしてアカウントにアクセスし、必要な Intersight プライベート仮想アプライアンス、HyperFlex、または Cisco UCS Director ソフトウェアパッケージをダウンロードできます。

Cisco UCS サーバーファームウェアおよび Cisco UCS サーバー設定ユーティリティをダウンロードするには、[Cisco Software Central](#) にアクセスします。

(注) アカウント管理者は、作成されたアプライアンスアカウントにユーザーとグループがアクセスできるようにします。ユーザーとグループを追加する方法の詳細については、「[ユーザーの追加](#)」と「[グループの追加](#)」を参照してください。

Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード

このタスクの手順を使用して、Intersight 仮想アプライアンス、Cisco Hyperflex、Cisco UCS Director ソフトウェアパッケージをダウンロードします。



(注) Cisco UCS サーバーファームウェアおよび Cisco UCS サーバー設定ユーティリティをダウンロードするには、[Cisco Software Central](#) にアクセスします。

始める前に

アプライアンスアカウントが作成されていることを確認します。アプライアンスアカウントを作成していない場合は、[ソフトウェアパッケージをダウンロードするためのアプライアンスアカウントの作成 \(19 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 Cisco ID を使用して [Intersight](#) にログインします。シスコ ID をお持ちでない場合は[こちら](#)から作成してください。

ステップ 2 アプライアンス アカウントにアクセスするために作成したアカウントを選択します。

[ソフトウェアのダウンロード (Software Download)] ページが表示されます。このページに表示されるリストから必要なソフトウェアパッケージをダウンロードできます。

アプライアンスへのソフトウェアのアップロードに進むことができます。詳細については、「[Intersight プライベート仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード \(21 ページ\)](#)」を参照してください。

ソフトウェアパッケージをアップロードした後、要求されたターゲットにそれらをインストールできます。Cisco UCS Director ターゲットのコネクタパックをアップグレードするには、「[UCS Director インスタンスでのコネクタパックのアップグレード](#)」を参照してください。

(注) ESXi ソフトウェアパッケージも、Hyperflex ソフトウェアパッケージの一部としてダウンロードされます。したがって、ESXi ソフトウェアパッケージを個別にダウンロードする必要はありません。

Intersight プライベート仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード

Intersight プライベート仮想アプライアンスは、切断（エアギャップ）モードでデータセンターを運用する環境を対象としています。したがって、ソフトウェアパッケージは Cisco Software Central サイトから、または [Intersight](#) のアプライアンスアカウントにアクセスしてダウンロードし、アプライアンスにアップロードする必要があります。

プライベート仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージをアップロードするには、次の手順を使用します。

始める前に

必要なソフトウェアパッケージが次のようにダウンロードされていることを確認します。

- Cisco UCS サーバーファームウェアおよび Cisco UCS サーバー設定ユーティリティをダウンロードするには、[Cisco Software Central](#) にアクセスします。
- Cisco HyperFlex、Cisco UCS Director、または Intersight Private Virtual Appliance ソフトウェアパッケージをダウンロードするには、アプライアンスアカウントにアクセスする必要があります。詳細については、[ソフトウェアパッケージをダウンロードするためのアプライアンスアカウントの作成（19 ページ）](#) および [Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード（20 ページ）](#) を参照してください。

ステップ 1 左のナビゲーションパネルから、[ソフトウェア リポジトリ（**Software Repository**）]>[ソフトウェア（**Software**）] をクリックします。

ステップ 2 [ソフトウェアをアップロード（**Upload Software**）] をクリックします。

[ソフトウェアをアップロード（**Upload Software**）] ページが表示されます。

- a) ソフトウェアパッケージの保存場所に応じて、[ローカルマシン（**Local Machine**）] または [ネットワーク共有（**Network Share**）] を選択し、[次へ（**Next**）] をクリックします。
- b) [ネットワーク共有（**Network Share**）] オプションの場合は、プロトコルを入力し、ファイルのコピー元であるリモートサーバーの詳細を入力します。
 - [プロトコル（**Protocol**）]：ファイル転送に使用される通信プロトコル。SCP（Secure Copy Protocol）および SFTP（Secure File Transfer Protocol）がサポートされています。
 - [サーバ IP/ホスト名（**Server IP/Hostname**）]：ファイルのコピー元のネットワーク共有サーバー
 - [ポート（**Port**）]：使用する TCP ポート
 - [場所（**Location**）]：コピーするファイルが保存されているディレクトリ
 - [ファイル名（**Filename**）]：ネットワーク共有からコピーするファイルの名前
 - [ユーザ名（**Username**）] ネットワーク共有で認証するためのユーザー名

- [パスワード (Password)] : ネットワーク共有で認証するためのパスワード

[要求 (Requests)] アイコンをクリックすると、アップロードの進行状況を追跡できます。アップロードプロセスが正常に完了すると、アップロードしたソフトウェアが [ソフトウェア リポジトリ (Software Repository)] ページに表示されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。